

あきらめたらおしまい

—塾長特別講演会で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：今年の夏は、随分講演したようですね。

A：（林明夫：以下省略）はい。栃木県の地元紙である下野新聞社から、高校入試の受験生を対象に宇都宮市と小山市の2か所で8月に講演会を依頼されました。会場近くにある開倫塾の校舎の塾生も参加させて頂いたのですが、開倫塾の他の校舎でも同様の講演をした方がよいと判断。今年の夏は合計49か所で中学3年生と高校3年生を対象に塾長特別講演会をさせて頂きました。（開倫塾は、現在、栃木県に41校、群馬県と茨城県に各々5校の合計51校舎があります）

Q：なぜ51ものほぼ全校舎でお話しようと思ったのですか。

A：せっかく開倫塾に通って頂いているのに、塾長である私の名前は知って頂いていても、実際にお会いしたことのない塾生が増え、申し訳ないとずっと思っていたからです。

そこで、せめて来年に受験を控える中学3年生と高校3年生だけにでもじっくりとお話しなればと考えました。51校舎の校長と職員の協力を得て、7月下旬から8月18日までほぼ20日間かけて全日程を終えることができました。

Q：どのような内容のお話をしたのですか。

A：会場には、受験生の他にも、非受験学年の塾生や保護者、卒塾生、普段の私の話をあまり聞いたことがない非常勤講師、事務職員の皆様もいらっしゃいました。そこで、詳細なレジュメ（講義資料）を用意し、参加者には予習して頂きました。また、事前に校長はじめ校舎の先生方からの質問と塾生からの質問をまとめて頂きました。講義終了後は、アンケートに私へのメッセージと役に立ったこと、質問を書いて頂きました。

講演の内容は、希望校に合格するために学力を大幅に向上させ、偏差値を大幅にアップさせるにはどうしたらよいかでした。

加えて、学力向上と同時に大切なのは、この受験勉強を通じて「学び方」を身につけ一生役に立ててもらいたいということでした。

学び方を学ぶ能力、読書による思慮深さ、新聞を読んで自分で考える力と批判的思考能力を身につけることも訴え続けました。

Q：メイン・テーマは何でしたか。

A：「あきらめたらおしまい。自分の未来は自分で切り開こう」です。経済同友会の友人である小林恵智さんから、先日、「林さん。あきらめたらおしまいだぞ。7年間の宇宙の旅からやっと地球に帰還したハヤブサのように生きようぜ」と言われ、なるほどその通りだと思い、今回のテーマにさせていただきました。

Q：学力を身につけるには、どうしたらよいとお考えですか。

A：私は、次のかけ算が大事と考えます。

$$\boxed{\text{学習の成果}} = \boxed{\text{本人の自覚}} \times \boxed{\text{学習方法}} \times \boxed{\text{学習時間}}$$

また、それぞれにも1～10くらいのレベルがあります。かけ算なので、各々のレベルがすべて1なら成果は1、すべて10なら成果は1000となります。各々のレベルを少しずつ上げて、できるだけ高い学習成果を目指してもらいたいと思います。

Q：少し詳しく説明して下さい。

A：(1)自分は受験生であるという「本人の自覚」についても、どこの学校を受験するのかだけでなく、希望校に合格して何をするのか、卒業後何をするのか、上の学校に進学するのか、大学院に進学するのか、進学して何をするのか、働くとしたらどのような仕事に就きたいのか、何のために働くのか、どのような一生を送りたいのかなどを考えたらよいかもしれない。

最後に、内村鑑三先生の「後世への最大遺物、デンマルク国の話」(岩波文庫)の内容を紹介。死んだ後、後の世に何が残せるか、お金か、仕事か、作品か、教育か、生き方かを考えることも大事。

(2)「学習方法」で大切なのは、学習の「手順、順序」。まずは学校や開倫塾などの授業で「うん、なるほど」とよく「理解」するにはどうしたらよいか。ノートの取り方を含め、授業の受け方を考える。教科書や参考書、模擬テストの解説などを自分で勉強するときの心得。辞書や参考書の活用方法も。

一度「うん、なるほど」と「理解」したものを身につける、「定着」させるとはどういうことか。そのために必要な作業とは何か。「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」の具体的方法。

「過去問」を何年分どのように勉強して、各模試で偏差値を上げ、また、本番の入試で合格点を取るか。

(3)「学習時間」は長ければ長いほどよいが、大事なのは1日7～8時間の睡眠時間と4～6時間の食事時間などの生活に必要な時間。残りの10～12時間のうちどれだけ机に向かえるかは、「本人の自覚」のレベルで決まる。受験生としての自覚を持ち、「自律的に活動する能力」を身につけること。机の上やカバンの中、部屋を自分の力で整理・整頓、トイレや風呂場、玄関や庭、家の外を誰に言われなくても自分の力で掃除するのもよい気分転換。家族に感謝しながら受験勉強を。学校や塾のクラスの友達是一生の友達。先生方は一生の恩師。卒業まで仲良くしよう。

Q：最後に一言どうぞ。

A：校舎や学年、クラスによる様々なバラツキを嘆く前に、学習塾、予備校、私立学校の塾長、学校長、理事長はじめ経営幹部の方も積極的にすべての教室に入り、伝えなければならないことを伝えるべきと考えます。

今月、皆様に御紹介したい一冊は、岡崎久彦著「真の保守とは何か」PHP新書、2010年9月1日刊。エドモンド・バークを紹介しながら、日本の将来を考える好著。ご一読を。

－ 2010年8月20日記－

— 山田雄司・私塾界代表を悼む —

「そんなに国内や海外の会議、視察に出掛けているのなら、学習塾や予備校、私立学校などの教育業界の発展のために毎月原稿を書いたらどうか」と米国チャータースクール視察の際に山田代表から依頼されスタートしたのが、この「歩きながら考える」です。

たえず業界全体の発展と各学習塾・予備校・私立学校の発展だけを考え続けた山田代表。その御恩に対し、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

林 明夫